

【第4部】 現状・今後

「交流居住」のこれから 地域に、心に実るカタチ

用語解説 情報交流人口…市外に居住する人に対して、何らかの
情報提供サービスを行うなど「情報交流」を行っている登録者人口
交流人口…観光やグリーン・ツーリズム（10ページ参照）などで市内に一時的・短期滞在する人口
二地域居住…「団塊の世代」の大量退職で、都市住民に広がるのが予想される生活様式。都市に暮らす人が年間1か月以上、あるいは定期的・反復的に、農山漁村など同一地域に滞在すること
定住人口…その地域に定住している人口

多様なライフスタイル
求め、さまざまな施策検討

市は、今後のまちづくりの指針「第6次上山市振興計画」の中にある「上山まちづくり戦略プロジェクト」の一環で「交流居住」に取り組んでいます。テーマは「多様なライフスタイルを求めて」都市と

農村の共生と対流Ⅱ「行ってみたいまち」から「住んでみたいまち」へ。主に「団塊の世代」を対象に、情報交流人口・交流人口・二地域居住人口・定住人口それぞれがうまく関連し、相乗効果が期待できるような施策を検討しながら進めています。

ここ1年間で、県外から市に寄せられた移住や二地域居住に関する相談は約十件。定年退職を2〜3年後に控えた人たちによる「家庭菜園を楽しむながら暮らしたい」「絵や石工のアトリエを探している」などといった内容が主で、必要に応じて空き家を紹介したり、現地案内をしたりしています。

昨年9月には、市職員によるワーキングチームを組織し「交流居住」に関するさまざまな検討を重ねています。これまで、本市の現状や先進事例について理解を深めたほか、地域資源をリストアップ

したり、それらを生かした「滞在型モデルプラン」を提案したりしてきました。また今年9月からは、市が把握している空き家情報が非常に少ないことから、本庁地区を除く市内支所・出張所管内を対象に、地区会長の協力を得て空き家実態調査を実施しており、現在、約八十件の空き家があることが分かりました。

市は今後、移住や二地域居住を希望する人などへのさらなる情報発信に努めます。また、持ち主が登録する空き家情報を管理し、希望者に提供する「空き家情報バンク制度」の設置や、▽地酒・地ワインづくり体験▽古城トレッキング▽森林セラピー体験▽上山版DASH村構想など、提案された「滞在型モデルプラン」の実現に向けて検討を進め、都会の若者が週末に上山で農作業を体験する「田舎時間（8〜9ページ参照）」との連携、拡大も図っていきます。

雪がある生活に憧れて… 毎日、驚きと発見の連続



※テレマークスキーとは、現代スキーの原型。かかとを固定しないで滑り、ひざを曲げた独特のターンをするスタイル。
【兵庫出身（守さん）・大阪府出身（婚約者・沙苗さん）東京都〜Iターン・1年目】2人は大学時代、現在の勤務先でのアルバイトがきっかけで、仕事にしたいと決意し移住。守さんはテレマークスキーワールドカップ出場経験もあり、幅広い年代の人々に山スキーの魅力を伝えている

小さいころからスキーが好きで、雪がある生活に憧れていました。坊平の大自然に囲まれ、子どもたちと元気いっぱい過ごしています。女子高生の方言、近所付き合い、おいしい食べ物など、都会での生活との違いに毎日驚きと発見の連続。まだ、どこか旅行気分です。いつか自給自足の生活を体験できる『上山版DASH村』をつくって、大好きな子どもたちに自然の良さや大切さを伝えたいと思います。

「当り前の良さ」 「ふるさとの良さ」実感



【東京都〜Uターン・3年目】2歳で会社を辞め上山に戻り、昭和5年にペンションを開業。県内外の子どもたちに、「緑の教室」「雪の教室」を通して、大自然の中のびのび育つ機会を提供している

坊平で暮らし、空気・水・自然など「当り前の良さ」、そして構えることなく自然体でいられる「ふるさとの良さ」を実感しています。ペンション村は、県外出身者が多く、それぞれにしっかり生活しているということは、ある意味成功した場所。この土地に住んだ以上、リゾート開発と自然環境との調和を図りながら、責任を持って少しずつ自然を取り戻しながら、原風景を残していきたいと思います。

【第3部】 理由

～Uターン・Iターン実践者の声～ 「かみのやま」応援団

用語解説 Uターン…地方から都市部へ移住した人が、再び地方の生まれ故郷に戻る現象
Iターン…出身地とは別の地方に移り住むこと、またその地の魅力を感じて出身地等の地縁のないところに移り住むこと

人の温かさがあり、 心が安らぐまち

20歳で、東京の美容室に就職。地元を出たくて、東京を選びましたが、心が安らげず、いつも先が見えない感じがしました。それが嫌になり、何より両親に親孝行したいと思い、上山に帰ってきました。上山は、共同浴場や田園風景など「人の温かさがあり、心が安らぐまち」だと思います。今後は、人と接する中で自分と技術を高めながら、お客様に愛される店にしたいと思っています。



美容室経営
棚井智子さん
（矢来4・42歳）

【東京都〜Uターン・18年目】美容師は小さい頃からの夢。5年間東京で勤務し、その後帰郷。現在経営する美容室は6年目を迎える。「さまざまな年代、職種の方と触れ合え、自分の中の世界が広がる。また、今の自分は家族の支えがあればこそ」と忙しい日々を送る

「人と人との つながりの濃さ」実感

山歩きが好きで山が見える場所で暮らしたい、また旅行で何度も訪れていた上山の「人の温かさ」が移住の決め手です。土地に馴染めるか不安でしたが、近所みなさんも親切にしてくれ、友人も徐々に増えるなど、都会にはない「人と人とのつながりの濃さ」を実感しています。今後は、裏方としてゆかたまつりを盛り上げるなど、都会では考えたこともなかった「地域貢献」をしたいと思っています。



専業主婦
佐野すみ子さん
（皆沢・54歳）

【茨城県出身・東京都〜Iターン 3年目】田舎暮らしを求めて、旦那さんと移住しログハウスを建築。夏のかたまつりに魅せられ、着物の着付け教室に通ったり、機織りを楽しんだりしている

四季折々の自然が お気に入り

土や田んぼの香り、雪景色など、地元の人には当たり前かもしれない四季折々の自然が気に入っています。わたしは温かく受け入れてもらい、たくさんの人と知り合い、仲間と大好きな上山を盛り上げることを心から楽しんでいます。自分から楽しく暮らそうと思うなら、これほど良い場所はありません。観光客が街中を自分の足で歩き、人々の触れ合いがあちこちで生まれる上山を、みんなでつくりたいものです。



企画/印刷会社 勤務
上山まちづくり塾生
阿部 檀さん
（矢来4・63歳）

【東京都出身〜Iターン・1年目】奥さんの実家が上山で、母親の面倒を見るため家族で移住。無料配布ミニマガジン「月刊かみのやま」の発行に携わっているほか、まちづくり塾生としても幅広く活躍

東京下町譲りの 「人の温もり、地区の一体感」

「蔵王が見える」、その瞬間、ここに決めました。雪景色や、雪解けの合間に顔をのぞかせる春のフキノトウ等、はっきりとした季節感にとっても感動しています。また、地区の人たちは親切で、エネルギー溢れる人が多く、近所付き合いを通しての人の温もり・地区の一体感は、生まれ育った東京下町の「ザックパラン」な近所付き合い、と共通するものがあり、とても住みやすいと思います。今後は地区の人たちとの関わり合いを深めていき、地域づくりを楽しみたいのです。



大石地区副会長
茨田 實さん
（大石・72歳）
みき子さん
（65歳）

【東京都出身（實さん）・天童市出身（みき子さん）静岡県〜Iターン・7年目】大の登山好き。定年退職を機に田舎暮らしを決意。現在、大石地区副会長を務めている。現在も山岳会OBとして年に数回の山行で高山植物や山々の風景を写真に収めて楽しんでいる